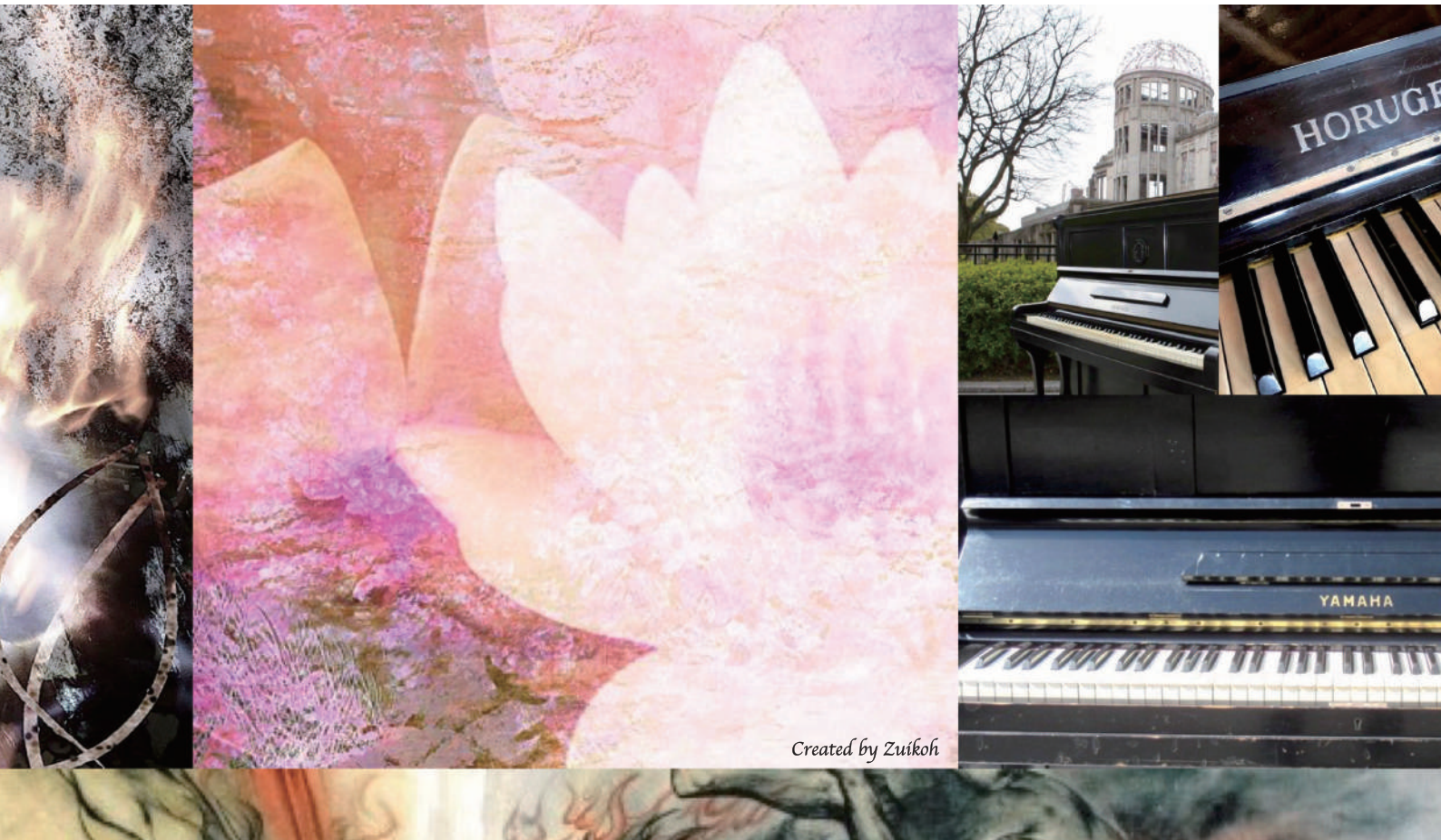


奇跡のピアノと、いのちを歌う

レクイエム・プロジェクト東京2022

～ 2台の被爆ピアノとともに奏でる“平和のうた”“いのちのうた”～



Created by Zuikoh

主催:レクイエム・プロジェクト実行委員会 共催:東京いのりのとき合唱団 特別協賛:(株)ケー・エフ・シー 協力:矢川ピアノ工房、和田 忠、EMプロジェクト

それはまさしく 奇跡のピアノ！

「被爆ピアノ」は1945年8月6日の広島への原爆投下の際、爆心地より約3km以内で原爆の爆風、熱線、放射能などの被害を受けたピアノのことです。ピアノ調律師・矢川光則さんは1998年に広島市の被爆者から「被爆ピアノ」を託され、自らの平和活動として2001年から全国各地そして世界中でそのピアノを使用した巡回コンサートが続けていらっしゃいます。「被爆ピアノ」は、そのままでは演奏に耐えられる状態ではありません。矢川さん自らが時間をかけて修理・調整することで生まれ変わり、新たな息吹を吹きこまれ、その音色とともに“平和”そして“いのち”の大切さを感じさせてくれるのです。

今回は矢川光則さんの特別なお計らいで、「ミサコさんのピアノ」「カズコさんのピアノ」の2台をお借りし、広島から運んでいただいて共に演奏します。

2022年 **11.5** sat

午後2時開演(午後1時15分開場)

会場: 浜離宮朝日ホール・音楽ホール



アンケートにご協力ください

ごあいさつ

作曲家、レクイエム・プロジェクト代表：上田 益

本日は、レクイエム・プロジェクト東京2022 コンサートにご来場いただき、誠に有難うございます。

被爆ピアノとの最初の出会いは、広島でのプロジェクトで2013年に開催したコンサートでした。東京のプロジェクトでは今回が初めてとなります。

この冊子の中面でも触れていますが、戦争を知らない私と原爆という惨禍との出会いは、57年前に遡ります。このページの下部にご紹介する丸木位里、俊ご夫妻の作となる「原爆の図」が、そのきっかけでした。「レクイエム・プロジェクト」を行ってきた根拠の一つであり、私の創作や人生の根幹の部分で、切り離せないものでもあります。

そもそもこの「レクイエム・プロジェクト」とは何なのかと、思われている方も多くかもしれません。

一言で言えば、自然災害や戦争で傷ついた地域で行っている、「追悼」「希望」「大切ないのちへの思い」をテーマにした合唱プロジェクトです。これまでに全国10箇所で開催し、現在もそのうち7箇所で開催した通年の活動を行っています。つまり、コンサートを行うことだけを目的とした活動ではありません。

直近の被災地では、それぞれの被災者が心の内にある悲しみ、苦しみなどを共に歌に託し、お互いに共有し共感することで、人と人、地域と地域が自然に繋がっていくプロジェクトでもあります。その根元にあるものは何かといえば、思いを託す合唱作品そのものです。

レクイエム・プロジェクトで歌っている楽曲はすべてプロジェクトで生まれたオリジナル作品です。活動を行う被災地の詩人に詩を書き下ろしていただき、プロジェクトの主宰者であり代表である作曲家の私が作曲した楽曲ばかりです。被災者と同じ経験をし、同じ心の痛みを抱えている詩人だからこそ、書き下ろされたその詩には、歌う者や聴く者にとって共感と共有を促してくれる世界が広がっています。ラテン語の作品は、私が1999年からコロナ禍で中断する2020年の前年まで21年間にわたり、毎年会場で流れる音楽を作曲していた神戸ルミナリエのための作品が原点となっています。

奇跡のピアノと共に歌う、いのちの歌。聴いてくださる皆様と、共有しあえるものがあることを願っています。

レクイエム・プロジェクト実行委員会

代表：上田 益 副代表：高田 薫

レクイエム・プロジェクト東京実行委員会

実行委員：石井洋一、木村美佐子、石田庸介、池田美恵子、川崎洋子、佐久間直子

丸木位里、俊 作 原爆の図

(高野山成福院 所蔵)



火



水

作曲はすべて上田益。全音楽譜出版社刊。

第1部

① ミサ・プレヴィス ～平安への祈り～(2016年、ローマ教皇献呈作品)……………指揮：上田 益、ピアノ：佐藤麻以子

1. Kyrie 2. Gloria 3. Credo 4. Sanctus et Benedictus 5. Agnus Dei

* この作品は、2016年秋に実施した「レクイエム・プロジェクト in バチカン・イタリア公演」に向けて作曲。
バチカン教皇庁からフランシスコ教皇に献呈する榮譽を与えられ、アッジジの聖フランチェスコ聖堂での世界初演されました。

② 児童(女声)合唱組曲「今この時を」(詩：伊波希厘)……………指揮：上田 益、ピアノ：倉片 明

1. 風が生まれる

時間のまんなかで
悔しくて立ちどまるとき
こころの森
裸足になって歩いてみよう
つまさき やんわり
染まってゆくよ
不思議だね
ぼくのこころに いま
みどりの風が生まれる
もっと優しくなれるように
ぼくが ぼくであるように

時間のまんなかで
泣きたくって立ちどまるとき
こころの泉
両手ですくって見つめてごらん
ゆびさき ひんやり
満ちてくるよ
不思議だね
きみのこころに ほら
みずいろの風が生まれる
もっと強くなれるように
きみが きみであるように

生きている時間のまんなかで
ぼくのこころに 風が生まれる
きみのこころに 風が生まれる

2. わたしの空

わたしらしくない
問いかけてみる
わたしらしくない
答えてみる

かごの中の鳥は
たいくつそうに
きゆうくつそうに
ありふれた今日を歌っている
新しいとびら
だれかが開いてくれるのを
* 待っているみたいに
わたしもおんなじ
問いかけてみる

背のびしても
伝えたい言葉 足りないから
受けとめようとしても
うなずくこと できないから
思い描くわたし まだ

はつきりと形にならないから
わたしらしくない
いつも揺れ動いている

このつばさ信じて
新しいとびら開けば
青ふりそぐ空が
わたしらしい空が
明日へつながっているはず

* 作曲にあたり「待っている」を「待ってる」とした。

3. 今この時を

ささやかな願いを込めた
初めての種をまいたら
だれかに そっと話したくなる
さりげない約束を告げる
初めての花を見つけたら
だれかに そっと教えたいくなる
こころが動きだす

あの日の雲のかたち
ひたむきに手を伸ばした
そんなふうに
小さなひとつひとつで
世界はつくられていた

うつくしい贈り物みたいな
初めての雪が降ったら
あなたに きっと見せたいくなる
ゆずれない宝物みたいな
初めての涙こぼれたら
あなたに きっと伝えたいくなる
こころを重ね合う

あの日の思い胸に
よみがえり目をつむった
そんなふうに
大切なひとつひとつで
世界はつくられてゆく

たしかめる足あとのような
はてしない祈りのような
そんなふうに
大切なひとつひとつで
未来はつくられてゆく

そんなふうに
特別な今この時を
みんなみんな生きている

4. はじまりの日のうた

覚えていますか
朝つゆ寄せたつぼみに
そよ風はなしかけるような
はじまりの日のうたを

もらったばかりの名前
呼んでいたのは
ずっとわたしを待っていたひと
やわらかな光に包まれて
凜として咲きなさいと

わたしたちが地球で目を覚ました
命のはじまりの日のうたよ

覚えていますか
ひな鳥まるい巢のなか
日なたのにおいのような
はじまりの日のうたを

行ったことのない場所
なつかしかったのは
ずっとわたしを待っていたから
あたたかな光を抱いて
羽ばたいていきなさいと

わたしたちが地球で大きく息をした
命のはじまりの日のうたよ

覚えていますか
はじまりの日のうたを
命をありがとう

休憩 15分



アンケートにご協力ください

第2部

③ 混声合唱組曲「名もなきところへ」(詩:伊波希厘)……………指揮:上田 益、ピアノ:箭野純子

1. ここにいる

探している
装っている
縛っている
見つめている
渦まいている
黙っている
向き合っている
ここにいる
乾いている
解いている
凧いでいる
揺れている
軽やかに 重たげに
涼やかに 熱を運び
人知れず 語っている
丹念に 紡いでいる
彼方の憧れに吹かれ
ここにいる
わたしは ここにいる

3. 耳をすます

百年前からの約束のように
わたしはここにいる
空が深まってゆく
千年前からの約束のように
あなたはここにいる
海が鎮まってゆく
いつかの鼓動が景色をゆらす
あなたの命に 耳をすます
どうして ここにいるのだろう
どうして ここにいないのだろう
まっすぐに駆けてくる少女よ
こらえながら立つ少年よ
どうして ここにいないのだろう
どうして ここにいるのだろう
百年前からの
千年前からの
約束のように ここにいる
空と海のあいだで
わたしの命に 耳をすます
あなたの命に 耳をすます

2. 海にふる雪

海にふる雪は 何を思う
その声は掠(かす)れていた
短い冬の日
退屈していたわけじゃなかった
(忘れたことはなかった)
くもった窓硝子
小さな部屋は暖かかった
海にふる雪を見に行こうよ
海にふる雪は 何を思う
その声に顔を上げる
浅い春の日
急いでいたわけじゃなかった
(忘れたことはなかった)
雑踏のなか
戻れない日々に取り残されて
海にふる雪を見に行こうか

4. 名もなきところへ

透きとおるほど新しい朝
行こうと決めたのだ
確かめたいのは 名もなきところ
けもの道が始まる静かなところ
雨の一滴が海へ 走り出すところ
地平線ほどけて空とつながるところ
巡りあう人が待つ遠くて近いところ
昨日の国境がなくなるところ
そして
心地よい疲れとともに眠りにつく
踏みしめた足跡を信じる
情熱を歌い流れる
怖れずに荒野を目指す
曇りのない言葉を持つ
鼓動と共鳴するリズムを知る
確かめたいのは 名もなきところ
朝が産声をあげる
名もなきところへ

④ 混声合唱組曲「生きとし、生けるものへ」(詩:上田由美子)……………指揮:上田 益、ピアノ:佐藤麻以子

上田由美子(1938~)

広島県生まれ。「広島」の夏は街全体がこの時 静止する 晩景 色を伏せ 黙禱するかのよう夕風を従う〜被爆体験を持つ上田由美子は、代表作「八月の夕風」をはじめとする『被爆者が被爆者にささげる祈り』の詩を多数発表している。「一枚のハガキ」で白鳥省吾賞最優秀賞受賞。「水の声」が第7回駿河梅花文学賞秀逸賞受賞。第七回ふる里の詩入選。上田由美子詩画集「白い闇」(2007年/澤標)、詩集「八月の夕風」(2009年/コールサク社)を出版。「蒼いざくら」(2016年/土曜美術出版販売)。日本現代詩人会、日本詩人クラブ、中四国詩人協会、広島県詩人協会の各会に所属。詩誌「火皿」「竜骨の会」「シャレイユ」会員。

1.野辺

野辺に咲くりんどうの花
より添う露の光が
暗闇の中の花を照らす

地の下では巡り来る春にそなえて
うごめくものを探りながら
命の糸の繕いが始まる

誰にも気づかれず
野辺の一隅でそっと咲く
りんどうの花にも露が寄りそう

命あるものはすべて等しく
自然の恵みが降りそそぐ
人知れず咲いた花にも降りそそぐ

ただ無心に紫の色を濃く薄く
天に示して

2.コスモスと少年

野辺に群れなすコスモスの花
色を集めて今を咲く

コスモスの花が数本
少年の手の中で揺れている
母を追ってコスモスの花畑
白い帽子が遠のいていく

コスモスの花を絵にした少年は
二十歳はたちになって戦場へ

コスモスの色を心に
花野を通り風になりながら
母の夢を置き去りにして大空へ
命を天空にあずけながら

やがて雲にからめ取られて
遥か彼方の空の果へと消えていった

戦場から母に届いた愛子の便りいとじ
一本のコスモスの花を押し花にして
コスモスとともに母の胸に甦える

3.海神に守られて

遥かな涯はてから聞こえてくる
わが子を呼ぶ母の声が
海なりを振りほどいて
風になって吹いておいで
雨になって降りておいで
この母のもとへ帰っておいで

幾たび季節がめぐってきても
幾多の苦しみを海に溶かしても

遥かな涯から聞こえてくる
わが子を呼ぶ母の声が
絆がちぎれて消えた子よ
水平線の青の中へ
凍いてついた海の底から
漣さざなみを分けて帰っておいで

夕日に吸い込まれながらも
母と子の呼び合う声が
波間をさ迷い聞こえてくる
海神わたつみにまもられながら
闇夜をたぐり寄せながら
光の先には 幼子がいて

4.天と地と海と ~祈りのラ・フォリア~

万人の心に万の景色の海がある
広い海原のどこからも
若き兵士の命の断片が
海鳴りの中で響き合う
遥か海の果から
日が昇り日が沈む時
人が生まれ人が死す
海は幾多の骸むくろを深々と抱いて
祈りうたの詩を海の果まで広げていく

万人の心に万の景色の海がある
あなたの嘆きを
私の嘆きを
たとえ戦いに敗れようと
森羅万象祈りの詩を
広い海原に轟かす
風が波を切りながら
その声は一つになって
天空へと吸い込まれていく

レクイエム・プロジェクトとは

作曲家・上田 益(うへだ すすむ)が主宰する「レクイエム・プロジェクト」は、人と人、地域と地域をつなぐ合唱プロジェクトとして、阪神・淡路大震災の被災地である神戸で2008年に始まりました。これまで全国10箇所で開催し、現在、北いわて(久慈、野田村など)、仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町、広島、長崎といった自然災害や戦災で傷ついた7地域で継続した活動を行っているほか、海外公演(プラハ、ウィーン、パチカン、イタリア、ポーランド)も行っています。
<https://www.requiem-project.com>



レクイエム・プロジェクト東京2015
～戦後70年、追悼と希望、そして平和への思いを未来へ～
(ティアラこうとう 大ホール)



現在までのプロジェクト実施地域、関連活動地域

神戸(2008年2月～現在)

レクイエム・プロジェクト発足の地。阪神・淡路大震災犠牲者の追悼をきっかけに2008年2月から準備活動が始まり、7月から合唱団の練習を開始。現在、活動14年目。2016年までは毎年震災の日である1月17日にコンサートを実施。2017年より、他地域の団員が参加しやすい日程で開催。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、活動の中心的存在。毎年コンサートを開催。



兵庫県佐用町(2010年11月～現在)

2009年に発生した水害犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。現在活動11年目。各活動地域の中で混声合唱団から唯一の女声合唱団に昨年変更。数年に1回コンサートを開催するほか、積極的に合唱団としての定期演奏会を行う。

長崎(2012年9月～現在)

原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。趣旨に賛同し、公募により集まった合唱団員数は全国でも有数。2015年のコンサートは長崎市被爆70周年記念事業に、2020年のコンサートは同75周年記念事業に採択。浦上天主堂で追悼コンサートを開催。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを実施。

沖縄(2010年4月～2015年6月)

沖縄戦の犠牲者追悼をきっかけに那覇で活動を開始。2015年の沖縄戦終結70年の追悼コンサートをもって5年間の活動を終了。

広島(2013年2月～現在)

原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。さらに2014年に発生した大規模土砂災害犠牲者の追悼も加わる。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを開催。



札幌(2012年3月11日)
東日本大震災チャリティーコンサート実施。神戸と東京の団員有志が参加。

北いわて(2013年11月~現在)
東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。久慈、野田村を中心に、八戸や盛岡を含む周辺地域からも参加。現在活動8年目。

気仙沼(2015年4月~8月)
東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに期間を限定して活動し、コンサートを開催。

仙台(2013年4月~現在)
東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。東日本大震災被災地の中心的活動地域。毎年1回、コンサートを開催。大船渡や陸前高田の人たちも、毎年仙台のコンサートに参加している。現在活動9年目。

福島(2012年3月16日)
福島市主催の震災復興コンサートに、和合亮一氏との対談や合唱で上田益、指導スタッフ、神戸と東京の合唱団有志が出演。

南相馬(2013年9月~2014年4月)
東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに期間を限定して活動し、コンサートを開催。

東京(2010年4月~現在)
神戸について全国2番目の実施地域。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、神戸とともに活動の中心的存在。東京大空襲、関東大震災などの災害を活動根拠としている。数年に1回コンサートを開催するほか、不定期に合唱団としての定期演奏会を行う。現在活動12年目。



<海外での活動>

- プラハ(チェコ)：2012年4月1日、東日本大震災チャリティーコンサートをドヴォルザーク・ホールでプラハ・フィルと開催。日本から神戸・東京の音楽ソリスト5人と合唱団有志17人が参加。在チェコ日本国大使館後援。
- ウィーン(オーストリア)：2014年10月11日、聖シュテファン大聖堂主催公式コンサート開催。東日本大震災から3年を迎え、その追悼の思いを込め、神戸・東京の音楽ソリスト(指導者)8人、仙台、南相馬、東京、神戸、広島、長崎から参加したプロジェクト合唱団有志、そして仙台フィルメンバー4人を含む総勢158人と現地のプロ・オーケストラにより演奏。
- 復興祈念と平和への祈りを込め、バチカン教皇庁の特別な許可を得て、「バチカン・イタリア特別公演」を2016年9月に実施。サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏、システリーナ礼拝堂での献唱(以上バチカン)、聖フランチェスコ聖堂(アッシジ)、サンタ・トリニータ教会(フィレンツェ)での演奏会を行う。音楽ソリスト4人と各地のプロジェクト合唱団有志、総勢106人により演奏。聖フランチェスコ聖堂で初演した、プロジェクト主宰者・上田益作曲「ミサ・プレヴィス〜平安への祈り」は、初演に先立ち教皇フランシスコに献呈する荣誉をバチカン教皇庁から与えられた。
- 「レクイエム・プロジェクトinポーランド〜平和への祈り〜」を、クラコフ市特別名誉賛助後援、在ポーランド日本国大使館後援のもと、2019年10月に実施。滅多に演奏の機会を持ってないシフィドニツァ・平和教会でのオルガンとのコンサート、クラコフ聖マリア教会での献唱、聖カタリーナ教会でのクラコフ・フィルハーモニー管弦楽団との共演、ワルシャワでは聖十字架教会ミサでの演奏や、ワルシャワ大学日本学科設立100周年記念行事の一環としてコンサートを実施。

ピアノ調律師・矢川光則さんと被爆ピアノ

それはまさしく 奇跡のピアノ!



矢川光則さん

原爆投下の際、爆心地より約3 km以内で原爆の爆風、熱線、放射能などの被害を受けたピアノのことです。「被爆ピアノ」は、そのままでは演奏に耐えられる状態ではありません。

矢川さん自らが時間をかけて修理・調整することで生まれ変わり、新たな息吹を吹きこまれ、その音色とともに“平和”そして“いのち”の大切さを気づかせてくれるのです。

以下、許可を得て矢川ピアノ工房ホームページより引用させていただきながら、ご紹介させていただきます。

広島を継ぐ被爆ピアノ

被爆ピアノ資料館の建設

矢川さんはピアノ調律師として約50年、広島でピアノ修理活動をなさっている中で、1998年に被爆者から1台の被爆ピアノを託された事がきっかけで、矢川さんご自身にできる平和運動として2001年より被爆ピアノ全国巡演コンサートを開始されました。被爆したピアノの音色を五感に聴覚に感じてもらう事で、特にこどもたちへの平和学習では大きな役目を果たし、「多くの人に平和を伝えていく平和の種蒔きをしてまいりました。」とおっしゃる矢川さん。しかし矢川さんも70歳を迎えこの活動はいずれ限りがくると感じ、被爆ピアノを被爆資料として永久保存しなくてはならないとの思いから、ご自身のピアノ工房敷地内に被爆ピアノ資料館を建設。2021年7月15日にオープンされました。資料館には被爆ピアノ7台と他に空襲をうけたピアノ等もあり、戦火を超えてきたピアノとして10台くらい展示されています。小さなコンサート、講演会等の企画や大型スクリーンを設置して命の教育、平和学習の場としても活用可能です。



命の大切さを奏でる平和の音色。

2001年より(広島平和記念公園)被爆アオギリの前でコンサートを開催。広島の被爆二世の調律師として被爆者より6台のピアノを授かり、自前の4トントラックを運転して、沖縄から北海道にいたる全国各地で、これまで1500カ所以上で被爆ピアノコンサートを行っています。そして、2010年9月に、はじめて海を越えニューヨークで、また2017年12月にはオスロ市でノーベル平和コンサートに招かれています。原爆を乗り越えたピアノが奏でる音色は平和と地球を大切にすることをやさしく伝えていきます。



被爆(ひろしま原爆)ピアノ平和コンサートの主催者を募集中!

<矢川さんより> 被爆者より核兵器廃絶と恒久平和の為、被爆(ひろしま原爆)ピアノを寄贈していただき、これは広島のピアノ調律師としてまた被爆二世として私に与えられた宿命でもあり、今は使命として全国コンサートを開催しています。一人でも多くの方に会員になっていただきこの活動を益々広めていくため、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。「被爆(ひろしま原爆)ピアノ友の会」では、被爆(ひろしま原爆)ピアノへの取り組みにご賛同頂ける方々へ年3回程度の情報配信をしております。



お振り込み先

ゆうちょ銀行：01330-1-100490

口座名義：被爆ピアノ世界平和コンサート基金

年会費：2000円

※お振り込みの際通信欄に(友の会)とご記入ください。

事務局

〒731-3169 広島市安佐南区伴西6丁目309 矢川ピアノ工房 気付

TEL：082-848-9533 FAX：082-215-0320

被爆(ひろしま原爆)ピアノプロフィール<矢川ピアノ工房所有>

1

●ヤマハ アップライトピアノ(千田町ピアノ)

製造:昭和7年 製造番号18209

形状:85鍵 象牙鍵盤

サイズ:高さ124cm 横幅148cm 奥行き64cm 重量約220kg

被爆状況:広島市中区千田町爆心地より1.8kmの民家で被爆。

経緯:被爆(ひろしま原爆)ピアノ所有者より、矢川光則さんへ託される。

現状:被爆当初のままだが、演奏は十分に出来るように修復され、コンサートで使用。



2

●ヤマハ アップライトピアノ(宇品ピアノ)

製造:昭和13年 製造番号33918

形状:85鍵 セルロイド鍵盤

サイズ:高さ124cm 横幅148cm 奥行き64cm 重量約220kg

被爆状況:広島市南区宇品爆心地より3kmの民家で被爆。

経緯:被爆者団体より、矢川光則さんへ託される。

現状:被爆当初のままだが、演奏は十分に出来るように修復され、コンサートで使用。



3

●ホルゲル(HORUGEL) アップライトピアノ(段原ピアノ)

製造:不明 製造番号13596

形状:88鍵 象牙鍵盤 2本ペダル

サイズ:高さ128cm 横幅157cm 奥行き61cm 重量約240kg

被爆状況:広島市南区段原山崎町爆心地より2.6kmで被爆。元の持ち主とピアノが自宅にて同時被爆。

経緯:原爆ピアノ所有者より、矢川光則さんへ託される。

現状:被爆当初のままだが、演奏は十分に出来るように修復され、コンサートで使用。



4

●ヤマハ アップライトピアノ(舟入ピアノ)

製造:大正9年 製造番号9817

形状:85鍵 象牙鍵盤

サイズ:高さ130cm 横幅154cm 奥行き68cm 重量約280kg

被爆状況:広島市中区舟入町爆心地より1.5kmで被爆。元の持ち主とピアノが自宅にて同時被爆。

経緯:原爆ピアノ所有者より、矢川光則さんへ託される。

現状:被爆当初のままだが、演奏は十分に出来るように修復され、コンサートで使用。



5

●ヤマハ セミコンサート グランドピアノ

製造:昭和12年 製造番号31953

形状:88鍵 6本脚 1本張弦方式(総アグラフ)

サイズ:高さ102cm 横幅161cm 奥行き260cm 重量約550kg

被爆状況:広島市西区爆心地より2kmの小学校で被爆し、大きな被害を受ける。

経緯:広島市のピアノ教師より、矢川光則さんへ託される。

現状:昭和21年に広島ピアノ工場で、大がかりな修復を行う。演奏は十分に出来るように修復され、コンサートで使用されている。



6

●モルゲンスターンアップライトピアノ(牛田ピアノ)

製造:不明

形状:85鍵 セルロイド鍵盤

サイズ:高さ127cm 横幅149cm 奥行き63cm 重量約210kg

被爆状況:広島市東区牛田旭1丁目爆心地より2.3kmで、元の持ち主とピアノが同時に被爆。

経緯:元の持ち主の家族より矢川光則さんへ託される。

現状:被爆当初のままであるがコンサートで使用されている。



映画「おかあさんの被爆ピアノ」

レクイエム・プロジェクト東京2022
～2台の被爆ピアノとともに奏でる“平和のうた”～

コンサート連絡と観劇会
主催：レクイエム・プロジェクト実行委員会
共催：東京の心の文化財保護
協力：映画「被爆ピアノ」制作委員会
おかあさんの被爆ピアノ
ダブル主演：佐野史郎、武藤十夢 (AKB48)
監督：五藤利弘

2022年 10・11 tue
会場：ティアラこうとう 小ホール
入場料：一般前売1,300円(税込) 1,500円
※当日の公演は主催者責任で観覧者数により中止の可能性があります。
※中止の場合は前売券は返金されず、次回公演に有効となります。
※観劇会：午後2時00分 観覧料500円
※観劇会：午後7時30分 観覧料500円

※本公演は新型コロナウイルス感染症予防対策として、観覧者数を制限し、観覧料に観劇会料を加えて500円を定めています。
※観劇会料は別途前売券に記載されています。お問い合わせは03-5821-1833(受付) 03-5821-1835(観劇会)

この観劇会料の半額を寄付して1,000円のコンサートにご参加下さい。前売：送料に観劇会料、変更は500円をコンパイルします。

レクイエム・プロジェクトでは本日の公演に先立ち、
映画「おかあさんの被爆ピアノ」
〈監督：五藤利弘、ダブル主演：佐野史郎、武藤十夢 (AKB48)〉の
上映会を10月11日に開催しました。

この映画は2020年の夏に広島で先行上映されたのち、
全国各地で現在もなお上映が続いている素晴らしい作品です。

また今年10月にアメリカ・ロサンゼルスで開催された「日本映画祭」で「平和賞」を受賞。今後
アメリカでも上映されていく予定とのこと。さらには来年1月8日(現地時間)に、カナダでも上映
される予定です。

五藤監督の最新作「日光物語」は、10月25日のNHK「首都圏ネットワーク」で特集されました。
世界遺産にも登録されている輪王寺門跡役としてこの映画に出演された宝田明さんにスポット
を当てる形で、映画が紹介されました。今年3月に亡くなった宝田さんは、反戦と平和の活動にも
力を入れたことで知られています。そして撮影のリハーサル中に宝田さんが書かれ、この映画に
登場する「不戦不爭」という4文字の言葉は、本来は映画とは無縁のはずでしたが、後日その書を
五藤監督が追加撮影し、映画に加えられたそうです。

この時代、この世界情勢の中で、今まさに「不戦不爭」という言葉が静かに注目を集めています。

「日光物語」は現在MOVIX 宇都宮で絶賛先行上映中です。

私と原爆の図

原爆と私の関わりを書いたのは、私家版のエッセイの中で少し触れた時ぐらいでしょうか。表紙をめくって皆さんの目に入った丸木位里、
俊ご夫妻の作「原爆の図」。不快な思いをなされた方には、お詫びします。しかしレクイエム・プロジェクトの活動も、その中で創作している
合唱作品も、私の人生の選択そのものも、ある意味この原爆の図と切り離しては、考えられないことでもあるのです。

私は、和歌山県高野山にある成福院という寺の孫として生まれました。僧侶だった祖父はタイの寺院に入り、南方仏教の研究をしていた
時に大東亜戦争が始まり、進駐してきた日本軍の命令で陸軍囑託として、最も悲惨な激戦地となったビルマの地に同行しました。ビルマ
各地に日本語学校を設立し教育者として従事。その後、ビルマの堅琴で有名なビルマ僧になりました。おそらく、おびたしい戦死者を出して
いた状況を目の当たりにし、僧侶として祈る以外に術がない状況の中で、苦しんでいたことだろうと思います。終戦の前年、ビルマ仏教界から
贈呈された釈迦仏像と経典を携え、船で命からがら日本に帰り着いたのだそうです。

広島、長崎への原爆投下により、1945年8月15日を迎えるわけですが、昭和31年、当時の厚生省の遺骨収集団に祖父は宗教者代表
として参加し、ビルマの激戦地を廻り、供養と遺骨収集を行って帰国。遺品や遺骨のごく一部を厚生省から供養のために譲り受けました。
そして自身が住職をする寺の敷地に、ビルマ戦没者の慰霊と世界の平和を願う摩尼宝塔という塔を建立したのです。その摩尼宝塔に奉納
するため、画家の丸木ご夫妻は数ヶ月にわたり寺に泊まり込んで「原爆の図」を制作し、「火」と「水」の二つの作品が摩尼宝塔に奉納
されました。おそらく祖父が依頼したのだらうと思いますが、丸木ご夫妻とどのように繋がっていたのか、祖父に尋ねる機会がなかったのが
悔やまれます。

その「火」と「水」と題された原爆の図を、摩尼宝塔が完成した1965年、つまり小学校3年生の時から私は見続けてきたことになります。
原爆や戦争の愚かさ、恐ろしさを原爆の図が語りかけてくれました。そして無言の教を私に与えてくれたように思います。原爆による炎の中の
生々しい姿の女性や幼い子どもが描かれている「火」に託された思い。ほとんどが焼き尽くされた中で、死に絶え、あるいは微かに残った力で
水を求める人たちの中に立ち尽くす全裸の少女。それらの作品に込められた思いをどう受け止め、表現者としてどう伝えていくのか。「祈り」
「大切ないのちへの思い」「平和への願い」は、レクイエム・プロジェクトの根幹に流れるコンセプトですが、その大切な部分を支えてくれる
原体験として、私と「原爆の図」との関わりがあります。

レクイエム・プロジェクト代表：上田 益 記

出演者

賛助出演の音楽家の皆さん



ソプラノ:本宮 麗子



ソプラノ:大島 久美子



アルト:横町 あゆみ



テノール:鏡 貴之



バリトン:大塚 雅仁

ピアニストの皆さん



佐藤 麻以子



倉片 明



箭野 純子

レクイエム・プロジェクト 東京いのりのとき合唱団

ソプラノ：荒船禎子、石井由美子、川崎洋子、高田 薫、寺田千晴、仁科由紀恵、伊東淳子、菊池晶子、佐久間直子、山中知子

アルト：池田美恵子、小沢節子、木村美佐子、中田令子、星合和子、米田陽子、松澤明子、阿部早苗、高橋 裕、深堀陽子

テノール：石田庸介、齋藤勝美、辻 直浩

バ ス：石井洋一、伊藤俊介、河村秀和

合 唱 団 員 募 集 中

参加資格：レクイエム・プロジェクトの趣旨に賛同し、協調し合いながら活動していただける方。

募集パート：ソプラノ、アルト、テノール、バス

練習日時：原則的に月4回、午後6時から9時。

練習会場：主に九段生涯学習館、神田スポーツセンター～など、交通の便が良い千代田区内。

会 費：入会金:1,000円、月会費:4,000円、事務費:1,000円(年1回)コピー代などに充当



レクイエム・プロジェクト活動15周年記念 プレ・コンサート

あゝの光を待ちわびて

～神戸からのイリュミネーション・イメージコンサート(ライブ配信)～

あの光が来年こそ私たちを迎えてくれることを願い、これまで神戸ルミナリエ会場であふれていた楽曲を約1時間、演奏風景とイリュミネーションをイメージした映像とでライブ配信するコンサート。

2022 / 12 / 3 Sat. 18:30 - 19:30

神戸ファッション美術館・オルビスホールから

生演奏ライブ配信

観覧券 税込1,000円+カンフェティ手数料198円 / 枚
配信後はアーカイブで7日間何度でも試聴可
<http://confetti-web.com/requiem-streaming/>

カンフェティで
観覧券好評販売中！
(観覧料会員登録)

コロナ禍により2020年から中断されている「神戸ルミナリエ」。作曲家・上田 益が1989年から21年という歳月のなか震災犠牲者への祈りを込めて毎年大切に手がけてきた楽曲は「神戸ルミナリエ」の会場を訪れる人たちをいつも優しく包み込んできました。

今その音楽を神戸、東京、仙台などで活躍する声楽家10人のほか演奏の素晴らしさに定評のある長岡京室内アンサンブル・メンバーなど一流演奏家とこれまで神戸ルミナリエ会場音楽にも参加してきた神戸と東京の合唱団が演奏します。

冬の夜のみと、神戸からの配信コンサートへ是非お出かけ下さい。

【演奏】
<指揮> 上田 益 <声楽アンサンブル> 本宮 麗子、北原かおり、小野純子、八川浩子、横町あゆみ、室岡翠華、真木寛規、鏡 貴之、小澤洋子、林 美雪
<長岡京室内アンサンブル> 高 悠子、高木和弘、田中佑子、安積育輝、中田美穂、野村樹季、三井祐平 ほか <フルート> 水越典子
<オーボエ> 須貝純聖 <ホルン> 上ひらみ
<合唱団> レクイエム・プロジェクト 神戸いのりのとき合唱団、
期 東京いのりのとき合唱団有志

主催：レクイエム・プロジェクト実行委員会 共催：神戸いのりのとき合唱団 幹事：(株)ケー・エフ・シー 協力：難波 忠、(株)エムプロジェクト



技術の力で未来を支える



建設ファスニング技術を通じて道路・鉄道・建築耐震などの安全対策に注力し、社会の発展と環境づくりに貢献します。

GBRC 性能証明 第 01-03 号 改 2

ハイブリット 耐震補強工法

本工法は、工事中の騒音や振動、粉塵を軽減できる特長を生かしながら、病院や学校あるいは事務所建築を中心とした、居ながらの耐震補強工事を可能としました。



内付工法 内装仕上げ例



外付工法 外観



ケー・エフ・シーはレクイエム・プロジェクトを応援します！



建技審証第 1203 号

せん断補強 **RMA** 工法

「既存ボックスカルバートや擁壁などの連続壁に対し、内空断面を侵さず補強を行いたい。」そんな希望にお応えするため開発されたのが、RMA 工法です。



RMA 工法施工前



RMA 工法施工後

【事業内容】

耐震関連工事の設計・施工及び環境・安全施設工事
建設用ファスナー類及び付属品の販売・施工
トンネル掘削用資材の販売

【事業所】

東京・大阪・名古屋・仙台
横浜・静岡・岡山・広島・福岡



株式会社 ケー・エフ・シー

<http://www.kfc-net.co.jp>